

ならの木便り 恩送り



事務室で仕事をしていたら、窓の外で突然ミン・ミンという蟬の鳴き声が響きました。この声を聞くと私は秋を感じます。そういえば、最近、吹く風にも密かな秋の気配を感じます。

今年は、近所の人に誘われて、私は檀家でもないのに正泉寺のお盆の法要に出かけていきました。一通り法要が終わり、最後にご住職の法話がありました。

時期遅れのお話かも知れませんが、それが心に沁みるいいお話だったので、ご住職に了解をいただき、原文のまま紹介いたします。



法要お疲れさまでした。住職の良峻でございます。

お盆とは「恩送り」の行事と言われております。お盆とは元々は時期が決まっておらず、地域によって行う時期は様々でした。しかし、古来の風習で、新年に上元と申しまして一年の無事を祈り土地の神様へお供物をする。そして7月に中元と申しまして日頃お世話になっている人々に贈り物をする。そして11月に下元と申しまして一年の豊作に感謝を込めて水の神様にお供物をするというものがありました。現代はお中元という風習が残っております。このお中元の際、お世話になっている方々だけでなく亡き大切な方、ご先祖様もご自宅にお迎えし感謝の気持ちを捧げましょう。ここからお盆を7月に行うようになりました。

しかし、昔は運送会社も電車も車もなく、遠方の方へ贈り物をしたり、長旅をしてお墓参りに行くことが困難でした。そこで行われたのが恩送りという行いでした。恩返しを受けた恩をその人に返すのに対して、恩送りは誰かから受けた恩を別の人に送っていく。そうして「恩」を世の中に回らしていく。これが恩送りでございます。

お盆で亡き大切な方、ご先祖様をお迎えし皆様で先祖代々受け継がれてきた恩、そして日頃おじいちゃんおばあちゃんお父さんお母さん友人、同僚、上司部下と私自身を支えてくれている方々の恩に想いを馳せ、それを世の中に回らしていく。

今年の2月に高校の剣道部の後輩が亡くなりました。行年30歳でした。葬儀は家族葬で行われましたが、通夜の前日に親族の方のご配慮で生前親好のあった方々へと、ご焼香の時間を設けて下さいました。

後輩は、24歳の頃、白血病を発症し、6年間の闘病生活をおこなってきました。途中、具合が良くなったタイミングで合気道を始めたと言っていました。剣道は防具が重く体に負担がかかる為、合気道にしたそうです。また、音楽が好きで病室で作曲活動もおこなっていたそうです。そんな新しい事を始めた一方で、自分自身が亡くなることを常に考えていたのでしょう。ご焼香の際、後輩の棺の横には書き残しが置いてありました。

書き残しの最後にはこのように書かれていました。

僕は今、自分自身で正常な血液を作れなくなりました。昨日、誰かが献血ルームに足を運んでくださって、その血が僕の体に届いて、1日1日命を繋いでくださった。献血で生かされている僕という命が、他の誰かの献血へ繋げていけるように、闘病日記と共にSNSで献血推進を配信させていただいています。僕の命が献血推進を後押しする力となって回り回って、より多くの患者さんに温かい血が不足の心配なく行き渡るように心より願っております。

後輩は気づ知らずの誰かの献血によって命を繋ぎ、いただいたその命の恩は狭い病室では献血をしてくれた気づ知らずの誰かや医療従事者の方々へお返しすることは出来ないけれど、「恩送り」という形で、同じように献血を必要としている方々へ回らしていきたい。その想いが書かれておりました。

恩返しではなく「恩送り」

よくしてもらった人にお返しするのではなく、別の誰かにお返ししていく、その人もまた別の誰かにお返ししていく、その「恩送り」のリレーが次々と繋がっていきます。

人間は生まれてからずっと、その大きなリレーの中で支えられている。延々と続くリレーの中で、誰かからバトンを受け、そのバトンを誰かに渡す。

是非、亡き大切な人のご恩、ご先祖様のご恩、自分を支えてくれている全てのご恩を思い「恩送り」をおこなってみて下さい。

